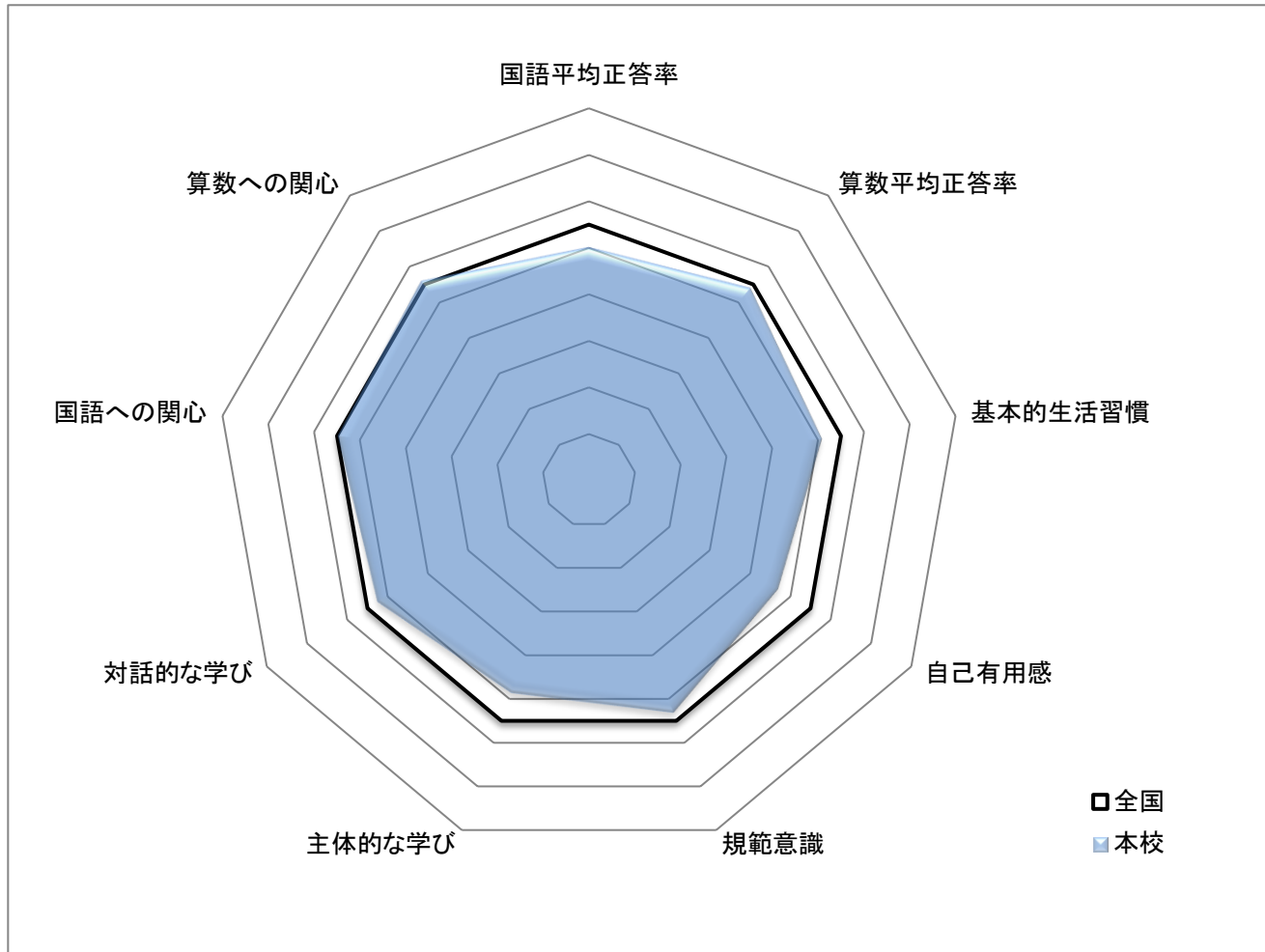


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

《現状分析 国語》
 ・国語は、全国平均では6.7%、都平均では9%下回る結果となった。
 ・情報に基づいて自分の考えを記述したり、筋道を立てて表現したりする問題において、特に平均を下回る結果となっている。

《現状分析 算数》
 ・算数は、全国平均では1.4%、都平均では6%下回った。
 ・「B図形」「C変化と関係」「Dデータ活用」の領域で都平均を7%程度下回る結果である。A,Cの領域では、全国平均は上回っている。

《授業改善のポイント》

・国語科、算数科の課題である、「文章から必要な情報を読み取り、自分の考えをもつこと」については、江戸川区算数スタンダードの学習の進め方にもある、「課題把握」から「見通し、自力解決」をどの教科で取り入れ問題解決型の学習を進められるようにする。

・自己有用感を高めるために、授業の中で、子供同士の考えを交流する場面を設け、対話的で深い学びができるようにするとともに、授業以外の活動（当番、係活動、委員会活動、クラブ活動、異学年交流）で、友達や仲間の頑張りを認め合えるような関係性を築けるような指導を行う。

《チャートの特徴》

・バランスが良いが、ほとんど全ての項目において全国平均と比較すると、少しずつ下回っている。
 ・特に自己有用感は全国平均を下回っている。自分は認められている、必要とされていると感じる児童が少ないことが分かる。
 国語や算数に対する関心は高いが、学び方として主体的に学ぼうとする児童が少ない。

《家庭・地域への働きかけ》

・より家庭との連携を図り、家庭でも児童の頑張りを称賛できるようにする。
 ・学校から地域や家庭にHP等を活用し、積極的な情報発信をしていくとともに、家庭学習の意義や取り組み方を伝えて、家庭や地域でもより効果的な学習を行えるよう促していく。